

— カーボンニュートラルと東アジア情勢を考える —

令和3年度第1回研修会を開催

令和3年6月17日(木)、KAKKINは友愛会館においてエネルギーと経済・環境を考える会と共催で、研修会を開催しました。

講演Ⅰとして(公財)地球環境産業技術研究機構(RITE)の秋元圭吾氏から「2050年カーボンニュートラルについて」、講演Ⅱとして東京国際大学の村井友秀氏から「東アジア情勢と日本の安全保障」についてお話をいただきました。

■秋元氏講演要旨

- 2050年カーボンニュートラルに向けて、再生可能エネルギーは多くの課題を抱えてはいるが、大幅な拡大は必須。
- 原子力発電の社会的課題は大きいですが、カーボンニュートラル実現に大きく貢献する。継続的な原子力利用を目指すべき。
- 脱炭素化の実現には、相当高い排出削減費用が必要。
- 温暖化対策の様々な技術開発を含めて多くの課題がある。



■村井氏講演要旨

- 日本に対する脅威を考える要素は、攻撃能力とその意図(目的)である。特に意図が現状維持ならばともかく、現状変更を狙っているのならばこれは危険。
- 中国は尖閣諸島の現状変更を狙っている意味で日本の脅威。日本が中国との紛争を避けるためには、日本に手を出したらコストがかかると中国に思わせることが必要で、具体的には日米同盟の強化、軍備の増強ということになる。



*詳細は後日発行するKAKKINニュース第83号に掲載します。